



辰巳小だより

江東区立辰巳小学校

校長 景山 賢治

学校だより第6号

令和8年9月30日

(ホームページアドレス) <http://tatsumi-sho.koto.ed.jp>

先人の知恵を未来への標（しるべ）に 大河ドラマ「豊臣兄弟！」の歩みから学ぶ、現代をたおやかに生きる力

副校長 鈴木 伸之

朝夕の風に涼やかさが混じり、校庭の木々も少しずつ色づき始めるなど、豊かな実りの秋を感じられる季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より深く御礼申し上げます。

さて、今年大河ドラマ『豊臣兄弟！』をご覧になっている方も多いのではないのでしょうか。天下人となった秀吉の圧倒的な決断力の陰には、常に弟・秀長による誠実な調整と深い信頼があり、一見対照的な二人が互いの強みを認め、補い合いながら激動の時代を駆け抜けた姿は、仲間とともに生きていく上での大切な示唆を与えてくれているように思います。

私たちが学校で歴史を学ぶ意味は、単に過去の出来事や年代、人物名を暗記することではありません。古文書や当時の地図、遺構といった様々な資料に自ら触れ、「なぜ彼らはこの選択をしたのか」「どんな思いや工夫があったのか」という『問い』を立てて探究することこそ、真の価値があります。

例えば、残された手紙の一言や当時の記録から、教科書の一行の背景にある人々の葛藤や情熱を読み解くことができます。そうした探究のプロセスを通じ、こどもたちは「多角的に物事を見る目」や「事実に基づいて客観的に考える力」を養っていきます。歴史とは過去の記録であると同時に、人間理解を深めるための宝庫であると考えています。

現在、私たちが生きる現代社会は、デジタル技術の急激な進歩や地球環境の変化など、これまでの正解がそのまま通用しない「予測困難な時代」と言われています。だからこそ、こどもたちがこれから先、自分らしく豊かに生き抜くために必要なヒントが、大河ドラマ「豊臣兄弟！」に隠されていると感じました。

一つは、秀吉の「変化を恐れず新しい世界へ一歩を踏み出す『挑戦する心』」。そしてもう一つは、秀長の「自分と異なる考えや個性を持つ相手を尊重し、対話を通して互いを活かし合う『協働する心』」です。一人ひとりが異なる強みを持ち寄り、複雑な課題に対して粘り強く答えを見出していく姿勢は、これからの社会で最も求められる資質です。

教室や学校生活は、こどもたちにとって将来の社会へと繋がる「大切な経験の場」です。これからの人生の中で、友達と一緒に課題に取り組んだり、創り上げたりする中で、思い通りにいかない壁にぶつかることもあります。そうした時に「かつての人々はどのように知恵を絞ったのだろう」と過去の資料や先人の知恵に学び、友達と言葉を交わしながら新たな道を見出していく——。このプロセスを繰り返すことで、こどもたちの心には折れないしなやかさ（レジリエンス）と、他者を思いやる温かな視点が育まれていきます。

「歴史は過去と現在との対話であり、未来を照らす道しるべである」と言われます。先人たちが残してくれた豊かな文化や生き方の知恵というバトンを大切に受け継ぎ、こどもたちが「自らの人生の主人公」として、仲間とともにたくましく未来を切り拓いていけるよう、教職員一丸となって日々の教育活動に励んでまいります。

今年度も後期に入りますが、ご家庭や地域の皆様とともに、こどもたちの成長を温かく見守り、支えていきたいと願っております。引き続き、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。